

# 平成30年度研究推進計画書

学校名 伊丹市立笹原中学校

校長名 菰口 太志

## 1 研究形態

## 2 学校教育目標

自ら勉学に励み、自ら心身を鍛え、自ら進路を切り開く創造的な生徒の育成

## 3 前年度の研究

### (1) テーマ

「居場所づくり」・「絆づくり」～教育のユニバーサルデザイン化による規律ある

学習環境と良好な人間関係の構築をめざして～

### (2) 成果と課題

#### 【成果】

- ・全教員が授業のユニバーサルデザイン化を意識した校内授業公開を行った。また、「めあて」と「振り返り」の徹底を図り、見通しのある授業展開を意識した。
- ・笹トレが確立された。
- ・hyper-QUを活用した学級作りを行った。また、個別の指導計画をhyper-QUと連動させた。
- ・C R T（標準学力調査）等により基礎的な力が定着しているか検証した。
- ・若手教員の研修の充実を図るため、研究推進委員会のメンバーが中心になり、月に1回の若手教員自主研修会を企画した。

#### 【課題】

- ・学校評価で「毎回の授業でめあてが示されている」という項目で前年度と比べ、2ポイント下がったため、来年度さらに内容を深める研修を行う必要がある。また、振り返りに関しては、前年度より1ポイント上がったため、引き続き学習の定着を図るため確実に1時間の授業の最後に行うよう努めていく。
- ・職員は学校評価よりI C T機器を授業に積極的に取り入れていると感じているが、生徒は前年度より、7ポイント下げた。継続してI C T機器の活用や実物の提示などを行い、教育効果が高まる教材や使用方法をしっかりと見極め、効果的な活用方法について研修を進めていく。
- ・効果的な話し合い活動や発表の仕方の基本ルールを決めて、学校で統一したやり方を国語科が作った。しかし、全教科で統一させるまでにはいかなかった為、来年度は統一させる。
- ・笹トレを継続発展させていく。特に、1対1の学習方法を進展させる。また、笹トレだけでなく、朝読書や掃除、トライやる・ウィーク、体育の集団行動など様々なところで教え合いができるよう

にする。

- ・道徳教育では、教科化に向けた教材の選択や指導案の検討に力を入れるとともに、評価に役立てられるよう、生徒の思いが書かれたノートなどの記録を残していく。

- ・hyper-QU を毎年取ることにより、生徒の回答の仕方がやや乱雑になり信憑性を欠く面もあるため、1・2年生ではhyper-QUを、3年生ではエゴグラムを実施する。

- ・家庭学習ができない生徒が多く、宿題を学校でやる生徒が多い。見通しを立てて宿題をすることやテストの計画を立てるなど、連絡帳を活用し基本的な生活習慣を確立させる。

#### 4 本年度の研究

##### (1) テーマ

生き方を考え、主体性を持ち、進路実現に向かって学び続けるキャリア教育の実践と検証

##### (2) テーマ設定の理由

##### ① 昨年度教職員アンケートの意見【平成30年1月実施】

- ・自主性主体性の欠如

生徒が目標をもち、主体的に動くことが少なく、見通しをもった行動ができないと感じることが多い。

- ・家庭での学習や生活習慣の未定着

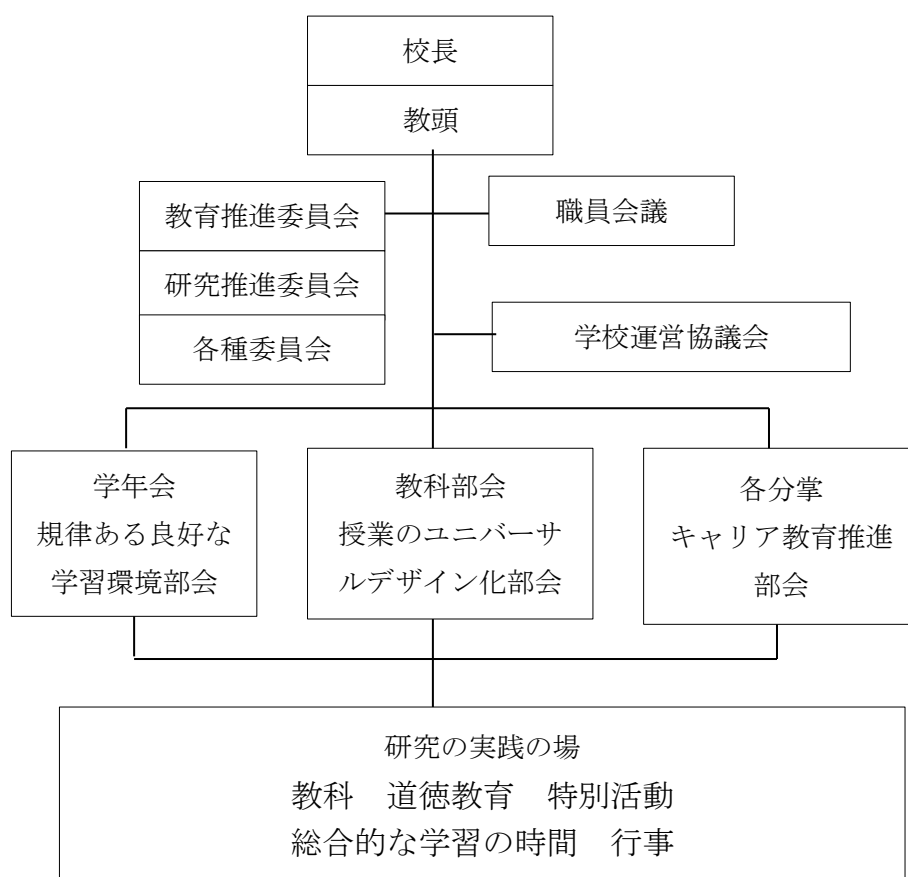
家庭学習時間が少ない生徒が多い。スマホやTVの時間が長いため、家庭学習習慣や読書習慣がない。

##### ② 学校評価・生徒の実態より

生徒は非常に落ち着いた態度で、生徒会活動やボランティア活動などにも精力的に取り組んでいる。学力については学習意欲も含め課題は多い。そのため、引き続きユニバーサルデザイン化を進める。

特に、学校評価で「ICT機器の活用」や「授業はわかりやすく楽しい」という質問に対して、平成28年度より平成29年度が7ポイント低下していたため、さらに生徒の視点にあわせ研究を進めていく必要がある。また、昨年度から始まった「笹トレ」を継続発展させることにより、基本的・基礎的な学力の定着とキャリア教育の推進を図り笹原中学校に教え合いの文化を根付かせる。平成27年度から研究を進めている「ユニバーサルデザイン化」については引き続き研究し、自ら考え自ら行動できる生徒の育成を図るため、キャリア教育に力を入れることにした。

### (3) 研究推進体制



アドバイザー

キャリア教育 hyper-QU 笹トレ 道徳教育  
特別支援教育 教育のユニバーサルデザイン  
各授業研究のアドバイザー

伊藤 博先生  
後野 文雄先生  
伊丹市教育委員会指導主事

### (4) 研究推進計画

研究の方向性

- ① 生徒の基礎学力定着のためのシステムの確立
- ② 笹トレ（教え合い学習）の改善
- ③ 授業規律の徹底
- ④ キャリア教育の推進
- ⑤ めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底
- ⑥ 授業評価システムの導入
- ⑦ 自主学習の導入
- ⑧ 問題解決力の育成（道徳教育の推進）
- ⑨ 確実な検証
- ⑩ 若手教員研修（笹原ぱんだクラブ）の充実

## 取り組み内容

### ①生徒の基礎学力定着のためのシステムの確立（ユニバーサルデザイン）

#### ・ICT 機器の活用の推進

ICT の活用は積極的に行われている。ただ単に I C T を活用するのではなく、効果的な活用方法の研修を行いさらに、効果的な授業を展開できるようにする。

- ・各教室にプロジェクターや電子黒板、ホワイトボードセット、タイマーの設置活用。
- ・全教員が公開授業を最低 1 回は行う。2 学期 3 学期にグループで研究授業を行う。
- ・授業の展開における発問や指示を工夫する。
- ・枠の活用をし、板書を工夫する。
- ・ノートやワークシートに○をつけるなど、机間指導を工夫する。
- ・小学校の研究授業に積極的に参加し、中 1 ギャップをうめる。（小中連携の強化）
- ・未来につなげる笹手帳の活用
- ・テスト前の終礼学習でプリントをやらせるだけでなくチームで問題を作り、教え合うということをする。

### ① 笹トレ（協働学習）の改善

原則月曜日に年間 26 回の 7 校時学習をする。基礎的・基本的な知識技能の習得とピアサポートによる学習意欲の育成を図る。

- ・昨年度から始めた笹トレを継続発展させる。今年度は生徒の 1 対 1 の教え合いを増やす。
- ・教え合いを笹トレだけでなく、上級生から下級生に掃除、朝読、集団行動など様々なことを教える。
- ・学校評価で【授業で話し合いや発表をする場面で、積極的に発言できる】という質問項目で A B 評価が 53.8%と低かったため国語科が中心となり話し合い活動のルール作成と役割分担や発表の仕方を学校で統一して行うようにする。また、hyper-QU にも注視し、生徒が発言しやすいような教室環境を整える。
- ・チーム学習を進めるために担任だけでなく、教科担当も座席位置を工夫する。

### ② 授業規律の徹底

- ・授業の挨拶の徹底（姿勢指導）
- ・全教室に正しい姿勢のイラストを掲示し、常に意識をさせる。
- ・黙々清掃の徹底（清掃の流れのルールの徹底、ぞうきんの色分け）
- ・黙々移動の徹底
- ・専門委員会の活性化

### ③ キャリア教育の推進

#### ・マナー検定の導入

よりよい人間関係を築くことや社会生活に必要なマナー（礼儀）の大切さを知らせるとともに、望ましい話し方や作法などを学ばせることで、コミュニケーションスキルの向上を図る。マナー検定を通して自己肯定感を高めさせるようにマナー検定を導入する。

#### （１）面接

集団面接時における対応（敬語を使った丁寧な話し方）ができるようにする。１，２年生は２回、３年生は１回の面接を行う。内容によっては、作文を書かせ優秀者には賞を与え、文化祭などで発表させる。

#### （２）その他のマナー検定について

マナー講話を行う

#### ・生徒会活性化

昨年度よりコミュニティスクールに認定された。今までやってきた、地域への活動を生徒と地域が一体となり取り組むことで、社会貢献する力を育む。生徒にボランティア活動をさせる取り組みを実施する。

### ④ めあて、振り返り、評価基準の事前提示の徹底

#### ・めあてと振り返りの強化

学校評価で【毎回の授業でめあてが示されている】という質問項目でＡＢ評価が９６．７％だった。今後はめあての文言の内容を深め、さらに見通しをもって教師と生徒が授業にとりくめるようにする。【授業の最後に学習内容を振り返る活動が行われている】という質問に対して生徒のＡＢ評価が６９．２％と低かったため、授業の振り返りの徹底を図る。

#### ・シラバスの作成

シラバスを活用し、評価基準を事前に提示する。また、不登校生徒が増えてきているので、不登校生の評価の付け方について、検討し特に丁寧に保護者生徒に説明をする。

### ⑤ 授業評価システムの導入

#### ・生徒が教師の授業を評価し、教師の授業力向上に努める。

例) ・工夫された授業だと感じますか？

- ・授業を通して何ができたら良い（めあて）のか分かっていますか？
- ・授業全体がスムーズに流れていると思いますか？
- ・学習の内容に対してやる気がわきますか？
- ・自分から「分ろう」「できるようになろう」と思って積極的に努力していますか？
- ・分からない（できない）とき、先生からのヒントや手助けがありますか？
- ・発表（作品作り・体を動かす・話し合う活動）が多くありますか？        など

#### ⑥ 自主学習の導入（家庭学習の導入）

- ・仮称）サクセスノートを活用する。自主学習が可能なノート作成をし、課題を与える。
- ・例）ポイントカードなどの導入

ただ単に勉強をさせるのではなく、宿題とプラスで課題を出し、課題が達成できたらポイントをつけていくなどを行う。

- ・教科ごとに出している課題を基礎問題、応用問題、発展問題などランクをつけ、基礎問題は全員課題とし、応用問題と発展問題は個人の判断で、取り組んだ分だけ評価を行う。

#### ⑦ 問題解決力の育成（道徳教育の推進）

- ・道徳教育の推進

平成31年度教科化に向けて指導案の検討に力を入れるとともに、評価の役に立つように、生徒の思いが書かれたノートなどの記録を残していく。評価については1学期研修を行い、2学期から通知表に記載させる。ローテーションは学校統一で行う。

#### ⑧ 確実な検証

- ・学校評価の質問内容を考え、生徒や保護者の評価が正しく返ってくるようにする。
- ・学力調査（C R T、全国学力調査）、体力調査、hyper-QU、学校評価のデータを注視する。

hyper-QUを毎年取ることにより、生徒の回答の仕方がやや乱雑になり信憑性を欠く面もあるため、1・2年生ではhyper-QUを、3年生ではエゴグラムを実施する。

- ・生徒に学習アンケートをとり、経験則で判断するのではなく数値で判断するようにする。

#### ⑨ 若手教員研修（笹原ぱんだクラブ）の充実

約年9回実施し、若手教員の指導力向上を図る。

(5) 研修会の年間予定

| 月   | 内 容                                        | 月     | 内 容                    |
|-----|--------------------------------------------|-------|------------------------|
| 4 月 | 生徒指導、進路指導、特別支援学級、<br>生徒支援、キャリア教育 笹トレ       | 1 0 月 | キャリア教育                 |
| 5 月 | キャリア教育<br>教育のユニバーサルデザイン                    | 1 1 月 | 学校評価                   |
| 6 月 | 授業研究                                       | 1 2 月 | hyper-QU 等の分析          |
| 7 月 | hyper-QU 等の分析                              | 1 月   | 学校評価及び次年度の作成<br>校内授業研究 |
| 8 月 | 小中連携<br>教育のユニバーサルデザイン<br>道徳教育、笹トレ、通級指導について | 2 月   | シラバスについて<br>授業研究       |
| 9 月 | 授業研究<br>校内授業研究                             | 3 月   | 来年度の研修について             |

※若手教員の研修を月 1 回行う

(6) 研究領域・教科等

研究領域・教科等（該当するものに○をつけてください）

- |                                 |                                     |
|---------------------------------|-------------------------------------|
| <input type="radio"/> 学級経営      | <input type="radio"/> 教科・・・教科名「全教科」 |
| <input type="radio"/> 総合的な学習    | <input type="checkbox"/> 教育課程       |
| <input type="radio"/> 道徳教育      | <input type="checkbox"/> 人権教育       |
| <input type="checkbox"/> 環境教育   | <input type="checkbox"/> 福祉教育       |
| <input type="checkbox"/> 生徒指導   | <input type="radio"/> 情報教育          |
| <input type="checkbox"/> 国際理解教育 | <input type="checkbox"/> 特別支援教育     |
| <input type="checkbox"/> 性教育    | <input type="radio"/> 評価            |
| <input type="checkbox"/> 特別活動   | <input type="checkbox"/> その他「授業改善」  |